

平成20年度 教育実習修了生へのアンケート結果

文学部教職課程

准教授 瀬戸口 昌也

准教授 今井 航

1. アンケートの実施目的

平成20年11月28日（金）に、教育実習を終えた教職課程履修者に対して事後の実習指導が行われた。その際、アンケートを実施した。

教職課程履修者は、次のようなことに対して自らどのように評価しているのだろうか。教育実習はどうであったか、あるいは実習を終えてどんな変化があったか、などである。またさらに、教員採用試験を受験したかどうかについても問うこととした。

本アンケートは、平成19年度に引き続いて実施されたものである。

2. 方法

当日は、105名の履修者が対象となった。アンケートの内容は、大きく分けて「教育実習に関する評価」と「自己評価」の二点であった。いずれも、5段階評価を採用した。以下のように5段階を設定した。

1 強くそう思う 2 そう思う 3 どちらともいえない 4 そう思わない 5 全くそう思わない

回答は、上記1から5までのうち一つだけ数字を選び、これに○印を付けてもらった。また、「その他」では教員採用試験に関する事項を調査した。さらに、「教職課程への要望」を自由に記述してもらった。

それぞれの具体的な事項は、以下の通りである。

I. 教育実習に関する評価

①十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ。	1	2	3	4	5
②学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた。	1	2	3	4	5
③熱意をもって、教育実習に取り組んだ。	1	2	3	4	5
④積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった。	1	2	3	4	5
⑤遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守った。	1	2	3	4	5

II. 自己評価

①教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した。	1	2	3	4	5
②教育実習は、これからの人生にとって貴重な体験となった。	1	2	3	4	5
③大学卒業後は、教職関係（公・私立の非常勤・臨採・塾講師など）に就職したい。	1	2	3	4	5
④大学を卒業してから、教員採用試験を受けるつもりである。	1	2	3	4	5

III. その他（YesかNoのどちらかに○印を付けてください）

①あなたは、今年度の教員採用試験を受けましたか。	Yes	・	No
②今年の6月中旬～7月中旬に教職教養対策講座があったことを知っていますか。	Yes	・	No
③あなたは、現時点で就職先が決まっていますか。	Yes	・	No

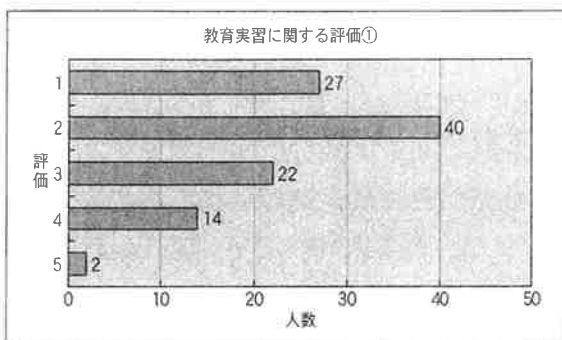
IV. 教職課程への要望（下の空欄に、実習の事前・事後指導や講義・演習のことなど自由に書いてください）

3. アンケート結果

それでは、項目ごとに結果をみてみよう。

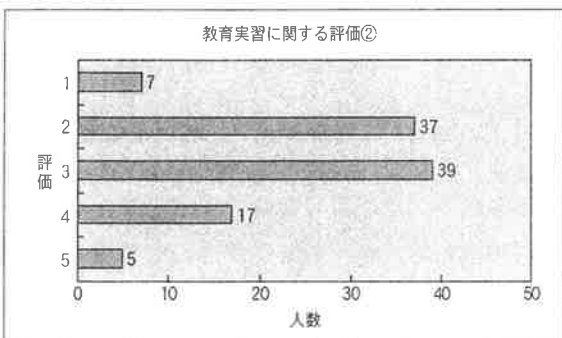
I. 教育実習に関する評価

①十分に教材研究を行い、授業にのぞんだ。



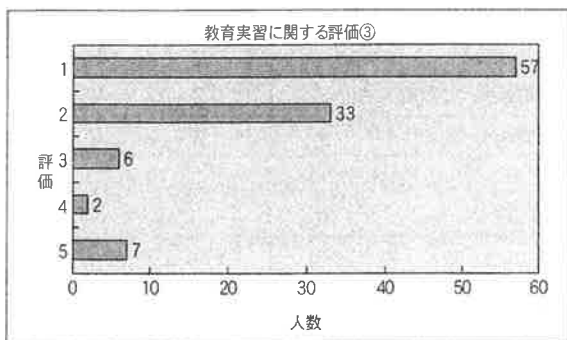
67名（64％）が十分に教材研究を行い、授業にのぞんだとしている。

②学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた。



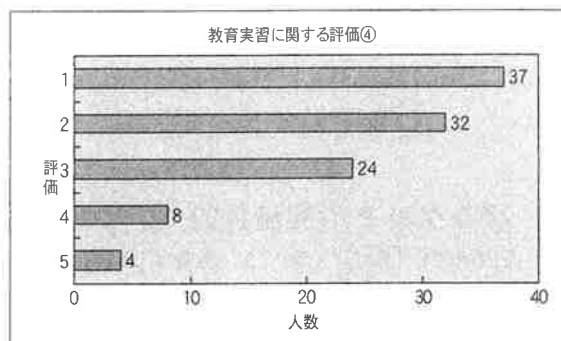
学習指導案に従い、思い通りに授業をすることができた者は44名（42％）である反面、61名（58％）がどちらともいえない、あるいは思い通りにはいかなかったとしている。

③熱意をもって、教育実習に取り組んだ。



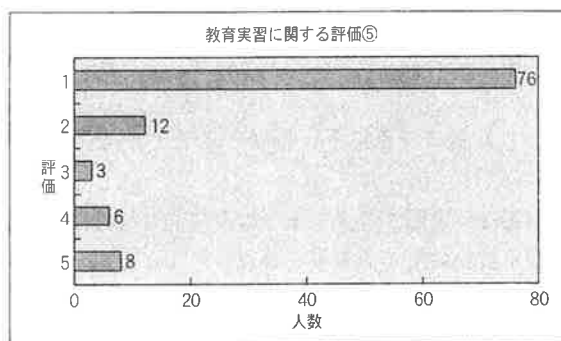
90名（86％）が熱意をもって、教育実習に取り組んだとしている。

④積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかった。



69名（66％）が積極的に生徒に接触し、コミュニケーションをはかったとしている。

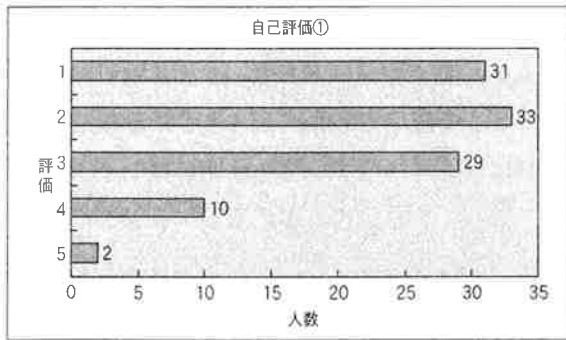
⑤遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守った。



88名（84％）が遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守ったとしている。一方で、ごく少数ではあるが、そうではなかったとする回答もみられる。

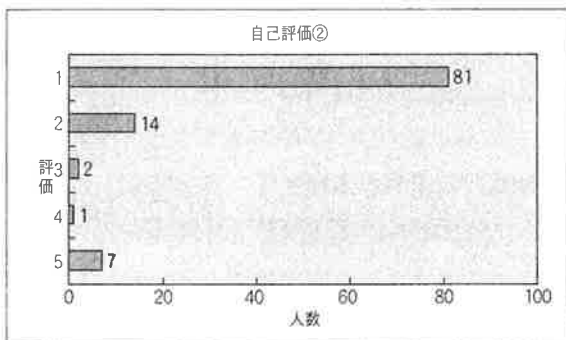
Ⅱ. 自己評価

①教育実習中に学習指導案の作成能力が向上した。



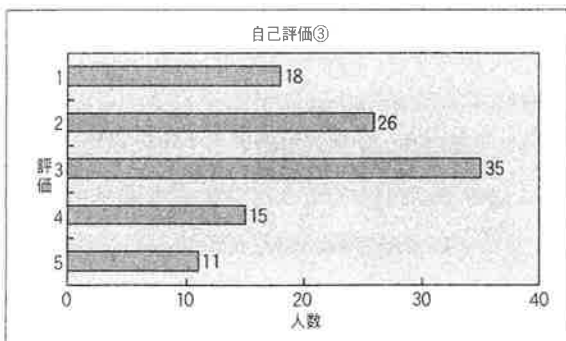
64名（61％）が教育実習中に学習指導案の作成能力が向上したとしている。

②教育実習は、これからの人生にとって貴重な体験となった。



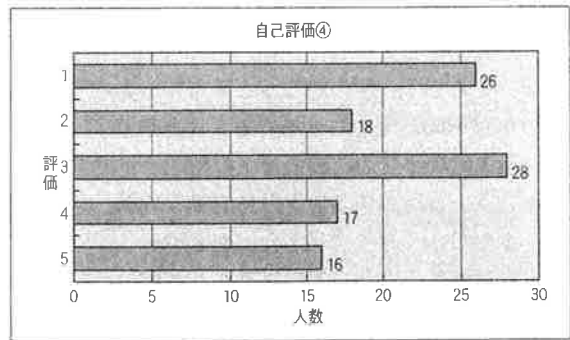
95名（90％）が教育実習はこれからの人生にとって貴重な体験となったとしている。

③大学卒業後は、教職関係に就職したい。



大学卒業後は、教職関係に就職したいとする者は、44名（42％）である。

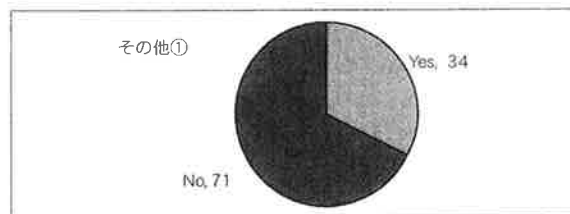
④大学を卒業してから、教員採用試験を受けるつもりである。



大学を卒業してからも、教員採用試験を受けるつもりの方は、44名（42％）である。

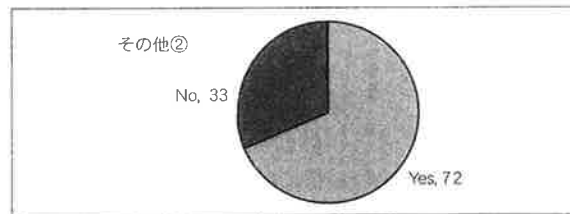
Ⅲ. その他

①あなたは、今年度の教員採用試験を受けましたか。



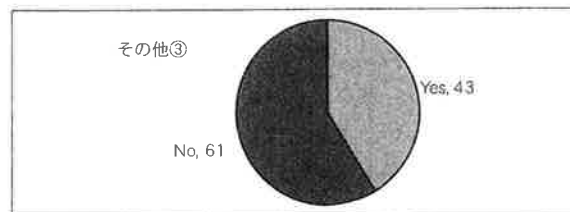
今年度の教員採用試験を受けた者は、34名（32％）である。

②今年の6月中旬～7月中旬に教職教養対策講座があったことを知っていますか。



72名（69％）が今年の6月中旬～7月中旬に教職教養対策講座があったことを知っていたとしている。

③あなたは、現時点で就職先が決まっていますか。



IV. 教職課程への要望

各学科で記述がみられた。学科ごとに一点ずつを抜粋し、以下に掲載する。

- ・あまり勉強をやっていないのに教員採用試験の順位が予想よりもよかった。私のような人が他にもたくさんいると思う。学生がもっと努力する場をもっと多く作るべきだと思った。朝の対策講座だけでなく、他にも半強制的に努力させるのも良いと思う。(国文学科)
- ・指導案の書き方、模擬授業の時間を増やすべき。(英文学科)
- ・もう少し指導案の書き方を指導してほしい。「実習先でこう習ったの?」と言われることがあり、何が悪いとかが分からなくて困った。(史学科)
- ・模擬授業の機会を各学科でもっと増やして欲しいと思った。指導案の資料などももっとあれば助かる。(芸術文化学科)
- ・座学よりも実際に指導案を作って授業をさせた方が身につくと思います。確かに講義では、作る上でのポイントは分かりましたが、実際に実習に行った時には、正直あまり役立たなかった気がします。(文化財学科)
- ・教育実習の体験に関するパネルディスカッションはこれからも行ったほうが良いと思う。(人間関係学科)
- ・食物栄養学科の教職課程は文学部と異なることが多く、あまり食物栄養学科の課程の方に対応した指導がなかったように思えます。来年から改善があれば有難いです。(食物栄養学科)

4. まとめ

以上のような結果から、平成20年度に教育実習を終えた教職課程履修者については、次のようにいうことができよう。

- ・十分に教材研究を行い、熱意をもって授業にのぞみ、積極的に生徒に接している。
- ・遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守っている。
- ・教育実習を通して学習指導案の作成能力が向上している。
- ・教育実習は今後の人生にとって貴重な体験になっている。

昨年度もほぼ同じような結果であった。学生の身分といえども、ひとたび学校現場に入ったら生徒やその保護者からみれば、ひとりの教師である。熱意をもって教育実習にのぞみ、これを通して学習指導案の作成能力が向上していることは、大いに評価されるべきであるし、本学教職課程履修者の誇りとしてよい。また、大半の履修者が遅刻や欠席をせず、実習ノートなど提出物の提出期限を守っているが、そうできない者も若干名みられる。今後本学では、一人も漏れなく守っていけるようにしていきたい。さらに、次のようなこともわかった。

- ・平成20年度の教員採用試験を受けた者は、3割程度である。
- ・しかしながら、大学を卒業してから教員採用試験を受けるつもりのある者、あるいは大学卒業後に教職関係への就職を希望している者は、4割程度である。今年度は受験しなくても、来年度以降に受験しようと考えている者が潜在的に多いと考えられる。

先に挙げたが、教育実習は今後の人生にとって貴重な体験になったと受けとめられていることは、大いに評価されることである。しかしながら、教育職員免許状を取得することの意味をもう一歩深く受けとめて欲しいと思う。

教育職員免許状は、教員としての資質能力を保証するものである。この資質能力を自らに問える機会が教員採用試験といえる。進む道に迷っている時かもしれない。だが、学生時代には是非とも教職課程履修者全員が受験にトライしてほしい。受験し、また受験し続けてこそ、自らの資質能力を反省することができるし、今後の方向性と進むべき道が明らかになるだろう。

われわれ教員も、本学教職課程履修者の要望にひとつひとつ応えていく必要がある。本学で教員養成の段階を過ごす学生の期待に応えるべく、いっそうの努力をしていくつもりである。